

## 提案

1. 解決すべき課題の根底原因を探り、優先課題とする。
2. ビジョン達成のための戦略、計画を策定し、達成に至るまで計画内容の見直しを行う
3. ビジョン達成に対する「責任」および、「改革すべき点」の明確化を図る。

## 提案の背景

第1回目の懇談会でも意見として出したことであるが、現在の課題が具体的に数値化されないまま作られていくビジョンの内容が、社会に求められるビジョンになるのか疑問を感じている。

私は企業セクターとして、持続可能な社会に求められる企業の在り方を探り考え出すことが必要であると考えている。

同時に、持続可能な社会に選ばれない企業とはどのような企業なのか、あるいは事業なのかを明確にする必要があると感じている。

企業の在り方、課題について、企業（経営者主体）だけで考えるのではなく、働く人々は勿論、企業と企業が繋がる中で起きている問題、事業活動による環境影響、などについて、経営陣外からの意見を取り入れることにより、社会や未来から選択される企業になることが必要だと考えている。

また実効性のあるビジョンには、夫々のステークホルダーが関わる、戦略、計画が無ければ行動に結びつかず、掛け声だけで終わってしまう。

ビジョンを作る中で、解決すべき課題の根底原因を探り、「改革する意識」をもって行動を起こさなければならない。その為にはステークホルダーの夫々の責任と過去からの行動と選択を変える強い意思が重要ではないだろうか？

ビジョン達成のために、戦略、計画を策定し、進捗確認を達成まで継続させなければ、責任を持ったビジョンとならないと考える。

例えば、「廃プラスチックと食糧残差を大幅に減らすこと」を行動目標にした場合、  
企業努力 「ゴミとなる物質の利用が減り製造が減る」「廃棄物処理されるゴミが減る」  
消費者努力「大量廃棄を出しているモノを選ばない」

といった効果が期待できる。一方で、改革を施さなかった企業は淘汰されるだろう。

ビジョン達成を進めるにあたり淘汰が発生することを社会として覚悟しなければ、改革はなされず、場当たり的な対策となり、社会環境は何も変わらずに時が過ぎるのではないだろうか？

以上を提案したい。